

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書
別添資料編

平成26年6月

秋田工業高等専門学校

目 次

I 基準ごとの資料

基準 1	高等専門学校の目的	1
基準 2	教育組織（実施体制）	28
基準 3	教員及び教育支援者等	56
基準 4	学生の受入	87
基準 5	教育内容及び方法	118
基準 6	教育の成果	227
基準 7	学生支援等	258
基準 8	施設・設備	335
基準 9	教育の質の向上及び改善のためのシステム	382
基準10	財務	501
基準11	管理運営	529

資料 1 - 1 - ① - 1

1 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独自の開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

(出典 平成24年度学校要覧 P. 7)

資料 1 - 1 - ① - 2

2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

(出典 平成24年度学校要覧 P. 7)

資料 1 - 1 - ① - 3

3 養成しようとしている人材像

3. 1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

3. 2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通すると共にプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。

また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

(出典 平成24年度学校要覧 P. 7～8)

資料 1 - 1 - ① - 4

4 達成しようとしている基本的な成果

4. 1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果を踏まえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育を通して、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

[教養教育]

主に低学年(1～3年生)で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上での基本的な素養を養うことを目的としている。教養教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

[専門教育]

主に準学士課程の高学年(4～5年生)で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。
- (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。
- (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置の開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。

物質工学科	有機材料，無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子，物質・材料の構造・物性を評価出来る技術を修得する。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。
環境都市工学科	社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術，およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

(出典 平成 24 年度学校要覧 P. 8～10)

資料 1 - 1 - ① - 5	
4 達成しようとしている基本的な成果	
4. 2 専攻科課程	
<p>専攻科課程の達成すべき教育の内容は，準学士課程の教育を基盤とし，技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は，次のとおりである。</p> <p>(1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え，生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。</p> <p>(2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため，正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し，かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。</p> <p>(3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し，複合領域にも対応できる能力を修得する。</p>	
<p>各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。</p>	
生産システム工学専攻	<p>機械工学，電気情報工学を基礎とした精密加工，システム工学，熱流体エネルギー，応用力学，エレクトロニクス，情報，制御，新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に，機械工学，電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。</p>
環境システム工学専攻	<p>物質・材料工学，環境都市工学を基礎とした無機材料，有機材料，微生物工学，水環境工学，環境地盤工学，環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学，環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。</p>
(出典 平成 24 年度学校要覧 P. 11)	

秋田高専の目的

PURPOSE OF AKITA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY(ANCT)

1. 使命 Mission

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

Akita National College of Technology has its six precepts, that is to say, 3S (Enterprise, Sincerity, Accountability) and 3K (Health, Research, Cooperation). The mission of Regular Course Curriculum is to teach students broad knowledge and advanced technical skills to become good engineers. Moreover, the mission of Advanced Engineering Faculty Curriculum is to provide advanced research and instruction in the arts and sciences necessary for a deeper understanding of specialized fields of engineering and to train practical engineers with creativity.

2. 基本方針 Fundamentals of Education

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践技術者の育成を目指している。

Based on the new educational precepts (Independence, Challenge, Creativity), Akita National College of Technology provides students with general education, specialized education, fundamental research, graduation research, Advanced Engineering Faculty composite education.

Our college aims to encourage the engineering talent who can contribute to both global industrial progress containing the local one and symbiosis in the world environment. From the educational point of view, it aims to cultivate students with their independence, challenge spirit and abilities to realize their creativity and to train practical engineers who possess broad knowledge, advanced technical skills, cooperation, synthesis and conception to integrate researches in different fields.

3. 養成しようとしている人材像 Vision of engineers

3.1 準学士課程 Regular Course Curriculum

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

Akita National College of Technology has our students of regular course built the bases for personal development as human beings according to the growth stages and it can make them realize social accountability as engineers with common sense.

It is necessary for the students of regular course to acquire the fundamental and technical skills, practical specialized knowledge and technology in the manufacturing industry, and challenge spirit. In addition, our college aims to train the independent and practical engineers who have the specialized knowledge and technology for manufacture skills and development, engineering design, tenacity to learn voluntarily all their lives.

(出典 平成 24 年度学校要覧 P. 7)

目 的

1 使命

本校は、3 S「創造・誠実・責任」と3 K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

3 養成しようとしている人材像

3. 1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

3. 2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通すると共にプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

4 達成しようとしている基本的な成果

4. 1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果を踏まえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教

育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育を通して、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

〔教養教育〕 主に低学年（1～3年生）で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上での基本的な素養を養うことを目的としている。教養課程で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。
- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

〔専門教育〕 主に準学士課程の高学年（4～5年生）で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。
- (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。
- (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置が開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料、無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価出来る技術の修得。工

業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。

環境都市工学科 社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術，およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

4. 2 専攻科課程

専攻科課程の達成すべき教育の内容は，準学士課程の教育を基盤とし，技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は，次のとおりである。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え，生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため，正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し，かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。
- (3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し，複合領域にも対応できる能力を修得する。

各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

生産システム工学専攻 機械工学，電気情報工学を基礎とした精密加工，システム工学，熱流体エネルギー，応用力学，エレクトロニクス，情報，制御，新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に，機械工学，電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要となる総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

環境システム工学専攻 物質・材料工学，環境都市工学を基礎とした無機材料，有機材料，微生物工学，水環境工学，環境地盤工学，環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学，環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

(出典 平成 25 年度学生便覧 P. 3～6)

秋田工業高等専門学校の目的

1 使命

本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、準学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

2 基本方針

本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。

教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

3 養成しようとしている人材像

3.1 準学士課程

人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

3.2 専攻科課程

準学士課程で修得した基礎および専門技術に加え、より専門分野に精通すると共にプレゼンテーション能力を身につけ、国際分野で活躍出来る技術者を養成する。また、複数の領域をまとめる総合力、複雑で多岐に亘る領域に求められるシステム思考、複合領域にも対応出来る能力を備え、技術者倫理を理解し高度で実践的な知識と技術を備えた自己啓発型の創造性豊かな技術者を養成する。

4 達成しようとしている基本的な成果

4.1 準学士課程

準学士課程は、教養教育と専門教育から成り、それぞれ達成しようとしている成果を設定している。教養教育で基礎学力を養うとともに、社会性を持った人材の育成を進めている。教養教育の成果を踏まえ、専門教育では技術者としての必要な能力を定め、それを目標に教育を行っている。さらに、学科の特性に応じた達成しようとしている技術内容も具体的に規定している。

これらの教育を通して、本校では準学士課程の卒業生にふさわしい社会性と教養、技術者の能力・知識の修得を目指して、教育を進めている。

準学士課程の各段階、および各学科で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

【教養教育】 主に低学年(1～3年生)で実施し、技術者、職業人として社会生活を営む上で必要な教養、および専門技術を学ぶ上での基本的な素養を養うことを目的としている。教養課程で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (A) 自らの意思を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて修得する。
- (B) 工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。

- (C) 世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意思の疎通ができる実践的な英語能力を修得する。

〔専門教育〕 主に準学士課程の高学年（4～5年生）で実施し、教養教育を基礎に技術者として必要な専門的な知識と技術を修得することを目指している。専門教育で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

- (D) 実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を修得する。
 (E) 教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を修得する。
 (F) 問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。

さらに、現代の産業や社会の要求に即して、学科毎に技術者として必要な知識・技術を規定している。その内容は、準学士課程の卒業生にふさわしく、技術者の職業に就く上で基本的に修得すべきことを決めている。各学科で達成しようとしている基本的な成果は次のとおりである。

機械工学科	機械とその要素、機器、装置が開発、設計、製作できる技術、およびこれらを支援するコンピュータの利用と制御に関する技術を修得する。
電気情報工学科	高度情報化社会に対応したコンピュータ、制御および通信に関する技術を修得する。新しい電子材料の創製と、電子回路およびエレクトロニクスデバイスに関する技術を修得する。社会基盤に対応した電気エネルギーに関する技術を修得する。
物質工学科	有機材料、無機材料等に関するバイオテクノロジーを含む合成技術と得られた分子、物質・材料の構造・物性を評価出来る技術の修得。工業化された際の製造プロセスを最適化する技術と運転・管理技術を修得する。
環境都市工学科	社会基盤整備を支える施設の計画・設計・施工および完成した施設の維持管理と再生のための技術、およびこれらを支援するために必要なコンピュータ技術を修得する。環境アセスメントおよび都市計画・都市デザイン設計とその関連技術を修得する。

4.2 専攻科課程

専攻科課程の達成すべき教育の内容は、準学士課程の教育を基盤とし、技術者倫理を理解した創造力豊かな実践的工業技術者の育成である。専攻科課程で達成しようとしている基本的な成果は、次のとおりである。

- (1) 自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を修得する。
- (2) 産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現（記述・口述・討論）し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を修得する。
- (3) 複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を修得する。

各専攻科で達成しようとしている基本的な成果は次の通りである。

生産システム工学専攻	機械工学、電気情報工学を基礎とした精密加工、システム工学、熱流体エネルギー、応用力学、エレクトロニクス、情報、制御、新素材などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に、機械工学、電気情報工学の複合領域におけるメカトロニクス技術者として必要となる総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。
環境システム工学専攻	物質・材料工学、環境都市工学を基礎とした無機材料、有機材料、微生物工学、水環境工学、環境地盤工学、環境地域計画学などを含む先端科学技術に深く関わる高度な科学技術を修得する。特に無機材料・有機材料・生物材料を利用した水環境改善のための処理技術や物質循環・エコマテリアル工学など物質工学、環境都市工学の複合領域における創造性豊かな技術者として必要な総合力・システム思考能力を含めた創造力を身につける。

(出典 平成 25 年度 機械工学科授業計画 P. 1～2)

資料 1 - 2 - ① - 4

平成 25 年 3 月 13 日

学 科 長 各 位

学 生 主 事

新入生合宿研修についてのお願い

平成 25 年度新入生合宿研修が 4 月 8 日（月），9 日（火）に行われますので，下記のとおり御協力をお願いいたします。

記

●学科代表教員の選出について・・・・・・・・・・ 3 月 22 日（金）まで学生支援係へ

1) 学科別活動の企画実施をお願いします。

内容 ①自己紹介

②講話・学科紹介

（カリキュラムに関する事項や学科の指導方針など。各先生の研究テーマを列挙し，専門科目との関連について言及していただいても結構です。）

③講話（5 年生）

④Q & A，諸連絡など

●欠席学生対応教員の選出について・・・

・合宿研修に参加しない学生は 4 月 8 日（月），9 日（火）に登校することになります。不参加学生の指導は出欠の確認を含めて各学科に一任したいと思いますので，ご配慮願います。

●引率学生（2 名）の選出について・・・

【注意】スーツ着用での参加をご指導ください。

1) 学級別・学科別活動において，通学・寮生活・部活動等についての体験発表等。

2) 研修全般における学級担任・学科代表教員の補助。

※5 年生は，進路に向けての活動も始まる時期かと思いますので，決定については直前変更がないように，5 学年学級担任，引率学生と十分に調整された上でお願いいたします。

※5 年生の本研修での引率は公欠が認められます。引率学生には，学生課教務係へ，公欠願を事前に提出することを忘れないよう，併せてご指導願います。

（出典 学科長配付資料）

資料 1 - 2 - ① - 5

平成 2 5 年 3 月 1 3 日

新任教員研修会 担当講師 各位

校 長

平成 2 5 年度新任教員研修会の開催について（依頼）

標記のことについて、新任教員に本校の現状等を理解いただくため、下記のとおり研修会を開催いたしますので、各研修内容について講義していただくようお願いいたします。

なお、今年度につきましては、受講者が 1 名のみであることを踏まえ、各担当講師が受講者と開催日時を連絡調整の上、実施していただくこととなりましたので、お手数をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

記

受 講 者：機械工学科 教授 磯部 浩一

実施期間：できるだけ、4 月の早期に実施いただくようお願いします。

※昨年度は、4/2（月）、4/3（火）の 2 日間にわたり実施。

研修場所：各研究室、会議室 B 等をご利用願います。

【研修内容】

【講 師】

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| ・教務に関すること（60分） | ：脇野教務主事 |
| ・学生に関すること（60分） | ：安東学生主事 |
| ・寮務に関すること（60分） | ：佐藤寮務主事 |
| ・専攻科に関すること（45分） | ：堀江専攻科長 |
| ・地域共同テクノセンターに関すること（45分） | ：宮脇テクノセンター長 |
| ・技術教育支援センターに関すること（45分） | ：対馬技術教育支援センター長 |
| ・学生相談(セクハラ含む)に関すること（45分） | ：渡邊学生相談室長 |
| ・JABEE に関すること（45分） | ：佐藤技術者教育プログラム専門部会長 |

※（ ）は、おおよその講義時間を記載しております。

（出典 総務課人事係資料）



秋田工業高等専門学校
Akita National College of Technology

学校案内



[前のページへ戻る](#) [TOPページへ戻る](#)

| 掲載日 2007/04/12 | 掲載内容有効期限 2007/09/30 | 担当者 企画室企画係 |

[トップページ](#) >> [学校案内](#) >>

秋田工業高等専門学校の目的

1 使命
 本校は、3S「創造・誠実・責任」と3K「健康・研究・協働」を校訓とし、進学士課程では「深く専門の学芸を教授し職業に必要な能力の育成」、専攻科課程では「より高度な工業に関する知識及び技術を教授研究し、すぐれた独創的開発能力を備えた実践的工業技術者の養成」を使命としている。

2 基本方針
 本校は、「自立・挑戦・創造」を教育理念に、教養教育・専門教育・専攻科複合教育及び卒業・特別研究を通じて、地域を含む世界の産業界発展に貢献し、かつ、地球環境の共生・創成に寄与する人材を養成することを目指している。教育においては、教養および専門知識・技術の修得に加え、自立した人間形成を基本に、新しいことへ挑戦する心、異分野の総合に必要な協調性と総合力、および自由な発想とそれを実現する創造力豊かな実践的技術者の育成を目指している。

3 養成しようとしている人材像
3.1 進学士課程
 人間としての素養を、年齢の発達段階に応じて修得することを目指し、技術者としての社会的責任を自覚できるようにする。基礎および専門技術を修得し、生産の現場に不可欠な実践的かつ専門的な知識と技術を有すると共に、新たなものづくり基盤技術を修得し、挑戦する能力を備えた技術者を養成する。さらに、生産技術や製品開発に求められる専門的知識や技術、与えられた問題を解決する能力、生涯に亘って自ら学ぶことのできる能力など、自立型技術者に不可欠な能力を有する実践的技術者を養成する。

(出典 秋田工業高等専門学校ホームページ)

資料 1 - 2 - ① - 7

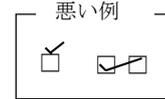
(全学生)

「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート 回答用紙

注 1：隣の文字枠やマーク枠にはみださないように記入してください。

枠の中に大きく記入してください。

HB の鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

Q0-1 学年 1年 2年 3年 4年 5年 専1 専2

Q0-2 学科 M E C B 生 環

設問

注 2：以下の設問には、必ず問題用紙を読んだ上で回答すること。

1 2 3 4 5

Q1 本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか?

Q2 学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」書かれていることを知っていますか?

Q3 準学士課程の教養教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか?

Q4 準学士課程の専門教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか?

Q5 専攻科課程に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか?

Q6 オフィスアワーの制度を知っていますか?

Q7 オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか?

Q8 オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする程度はどの程度ですか?

Q9 自主学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか?

Q10 成績評価・単位認定規定の説明を受け、理解していますか?

Q11.....進級規定の説明を受け、理解していますか?

Q12.....(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規定の説明を受け、理解していますか?

Q13.....(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規定の説明を受け、理解していますか?

Q14.....学習支援に関する学生のニーズがあれば意見をお聞かせください(自由記述).....

(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート回答用紙(学生用))

資料 1 - 2 - ① - 8

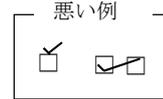
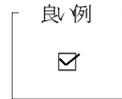
(教職員向)

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート 回答用紙

注 1：隣の文字枠やマーク枠にはみださないように記入してください。

枠の中に大きく記入してください。

HB の鉛筆・シャープペンシルで記入してください。



基本項目

Q0-1 教職員 常勤教員 非常勤講師 常勤職員 非常勤職員

設問

注 2：以下の設問には、必ず問題用紙を読んだ上で回答すること。

1 2 3 4 5

Q1 本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか？

Q2 学校要覧や学生便覧などに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？

Q3 準学士課程の教養教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか？

Q4 準学士課程の専門教育に設定されている、目標に対応する教科が分かりますか？

Q5 専攻科課程に設定されている目標に対応する教科が分かりますか？

Q6 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか？

(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート回答用紙(教職員用))

資料 1 - 2 - ① - 9

「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート集計結果（学生（準学士課程））

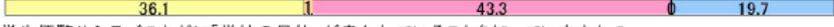
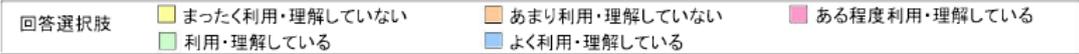
2014年度 集計結果

学年- 全学年 / 学科- 機械工学科

集計枚数 - 209 枚

設問 1		% 平均: 2.817 (回答数 208)
設問 2		% 平均: 2.660 (回答数 209)
設問 3		% 平均: 2.608 (回答数 209)
設問 4		% 平均: 2.679 (回答数 209)
設問 5		% 平均: 2.455 (回答数 101)
設問 6		% 平均: 2.923 (回答数 208)
設問 7		% 平均: 1.880 (回答数 208)
設問 8		% 平均: 2.512 (回答数 209)
設問 9		% 平均: 2.957 (回答数 206)
設問 10		% 平均: 3.368 (回答数 209)
設問 11		% 平均: 3.369 (回答数 206)
設問 12		% 平均: 2.990 (回答数 96)
設問 13		% 平均: 2.625 (回答数 56)

回答選択肢

2014年度 集計結果		学年- 全学年 / 学科- 電気情報工学科		集計枚数 - 208 枚
設問 1		% 平均: 3.010 (回答数 208)	本校には明文化された「学校の目的」があることを知っていますか？	
設問 2		% 平均: 2.663 (回答数 208)	学生便覧やシラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか？	
設問 3		% 平均: 2.500 (回答数 208)	<p>準学士課程の教養教育では、以下に示す(A)～(C)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？</p> <p>(A)自らの意志を的確に表現し行動できる能力、知識を整理し総合化できる能力、技術者倫理等、人間としての素養を年齢の発達段階に応じて習得する。 (B)工学基礎としての自然科学系科目を深く理解する。 (C)世界の多様な国・地域の歴史・伝統・文化を理解する能力、互いの意志の疎通ができる実践的な英語能力を習得する。</p>	
設問 4		% 平均: 2.543 (回答数 208)	<p>準学士課程の専門教育では、以下に示す(D)～(F)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？</p> <p>(D)実践的かつ専門的な知識と技術の基礎となる専門基礎学力を習得する。 (E)教養教育による工学基礎および専門基礎を土台とし、現象・動作を具体的に理解できる実践的な能力を習得する。 (F)問題・課題解決のための方法・手段を模索し、実行できる能力を身につける。</p>	
設問 5		% 平均: 2.039 (回答数 102)	<p>専攻科課程では、以下に示す(1)～(3)の目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか？</p> <p>(1)自ら問題を発見・解決する能力を備え、生涯に亘って学ぶことのできる能力を習得する。 (2)産業社会におけるグローバル化に対応するため、正しい日本語で表現(記述・口述・討論)し、かつ国際的に通用するプレゼンテーション能力を習得する。 (3)複雑で多岐にわたる工業技術分野に貢献できる技術を有し、複合領域にも対応できる能力を習得する。</p>	
設問 6		% 平均: 3.500 (回答数 208)	オフィスアワーの制度を知っていますか？オフィスアワーとは、学生が自由に教員に質問できる時間です。	
設問 7		% 平均: 1.644 (回答数 208)	オフィスアワーの制度の利用の頻度はどの程度ですか？本校では全教員がオフィスアワーを設定しており、研究室の前に時刻を示しています。	
設問 8		% 平均: 2.447 (回答数 208)	オフィスアワーとは別に、授業以外で教員に質問をする頻度はどの程度ですか？	
設問 9		% 平均: 3.240 (回答数 208)	自主的学習の施設として、図書館や情報処理センターなどを利用したことがありますか？	
設問 10		% 平均: 3.630 (回答数 208)	成績評価・単位認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、最初の授業(ガイダンス)で説明される項目です。	
設問 11		% 平均: 3.720 (回答数 207)	進級規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。	
設問 12		% 平均: 2.855 (回答数 62)	(準学士課程(5年)のみ)卒業認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ホームルームや面談、その他の機会を利用して説明される項目です。	
設問 13		% 平均: 2.571 (回答数 21)	(専攻科課程のみ)専攻科修了認定規程の説明を受け、理解していますか？通常、ガイダンスなどで説明される項目です。	
回答選択肢				

2014年度 集計結果

学年- 全学年 / 学科- 物質工学科

集計枚数 - 200 枚

設問 1		% 平均: 2.680 (回答数 200)
設問 2		% 平均: 2.553 (回答数 199)
設問 3		% 平均: 2.500 (回答数 200)
設問 4		% 平均: 2.550 (回答数 200)
設問 5		% 平均: 2.282 (回答数 78)
設問 6		% 平均: 3.126 (回答数 199)
設問 7		% 平均: 1.925 (回答数 200)
設問 8		% 平均: 2.655 (回答数 200)
設問 9		% 平均: 3.191 (回答数 199)
設問 10		% 平均: 3.415 (回答数 200)
設問 11		% 平均: 3.420 (回答数 200)
設問 12		% 平均: 2.836 (回答数 73)
設問 13		% 平均: 2.409 (回答数 44)

回答選択肢

2014年度 集計結果

学年- 全学年 / 学科- 環境都市工学科

集計枚数 - 183 枚

設問 1		% 平均: 2.885 (回答数 183)
設問 2		% 平均: 2.470 (回答数 183)
設問 3		% 平均: 2.632 (回答数 182)
設問 4		% 平均: 2.610 (回答数 182)
設問 5		% 平均: 2.368 (回答数 114)
設問 6		% 平均: 2.879 (回答数 182)
設問 7		% 平均: 1.995 (回答数 182)
設問 8		% 平均: 2.525 (回答数 183)
設問 9		% 平均: 3.022 (回答数 182)
設問 10		% 平均: 3.357 (回答数 182)
設問 11		% 平均: 3.335 (回答数 179)
設問 12		% 平均: 2.756 (回答数 90)
設問 13		% 平均: 2.662 (回答数 65)

回答選択肢

(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

資料 1 - 2 - ① - 10

「学校の目的」と「学習等の諸制度」に関するアンケート集計結果（学生（専攻科課程））

2014年度 集計結果

学年- 全学年 / 学科- 生産システム工学専攻

集計枚数 - 30 枚

設問 1		% 平均: 3.333 (回答数 30)
設問 2		% 平均: 3.133 (回答数 30)
設問 3		% 平均: 2.750 (回答数 8)
設問 4		% 平均: 2.750 (回答数 8)
設問 5		% 平均: 2.966 (回答数 29)
設問 6		% 平均: 3.967 (回答数 30)
設問 7		% 平均: 2.467 (回答数 30)
設問 8		% 平均: 2.967 (回答数 30)
設問 9		% 平均: 3.567 (回答数 30)
設問 10		% 平均: 3.667 (回答数 30)
設問 11		% 平均: 3.500 (回答数 30)
設問 12		% 平均: 3.000 (回答数 5)
設問 13		% 平均: 3.310 (回答数 29)

回答選択肢

2014年度 集計結果

学年- 全学年 / 学科- 環境システム工学専攻

集計枚数 - 18 枚

設問 1		% 平均: 2.389 (回答数 18)
設問 2		% 平均: 2.833 (回答数 18)
設問 3		% 平均: 1.917 (回答数 12)
設問 4		% 平均: 2.250 (回答数 12)
設問 5		% 平均: 2.278 (回答数 18)
設問 6		% 平均: 4.056 (回答数 18)
設問 7		% 平均: 1.722 (回答数 18)
設問 8		% 平均: 2.833 (回答数 18)
設問 9		% 平均: 3.500 (回答数 18)
設問 10		% 平均: 3.056 (回答数 18)
設問 11		% 平均: 2.944 (回答数 18)
設問 12		% 平均: 3.400 (回答数 10)
設問 13		% 平均: 3.375 (回答数 16)

回答選択肢	まったく利用・理解していない	あまり利用・理解していない	ある程度利用・理解している
	利用・理解している	よく利用・理解している	

(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
(常勤教員)

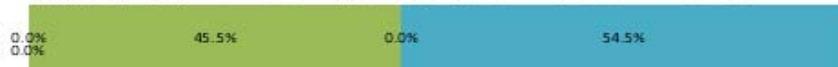
学校の目的とアドミッションポリシー (非常勤職員) 回答数 11

■ 全く分からない ■ ほとんど分からない ■ ある程度、分かる ■ 大体、分かる ■ よく分かる

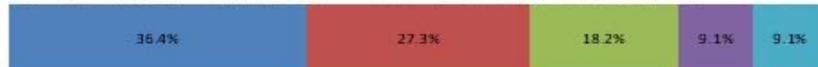
設問 1. 本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか。



設問 2. 学校要覧や学生便覧、シラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか。



設問 3. 準学士課程の教養教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 4. 準学士課程の専門教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 5. 専攻科課程では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 6. 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか。



(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

資料 1 - 2 - ① - 12

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
(非常勤講師)

学校の目的とアドミッションポリシー (非常勤講師) 回答数 33

■ 全く分からない ■ ほとんど分からない ■ ある程度、分かる ■ 大体、分かる ■ よく分かる

設問 1. 本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか。



設問 2. 学校要覧や学生便覧、シラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか。



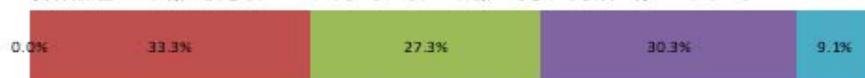
設問 3. 準学士課程の教養教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 4. 準学士課程の専門教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 5. 専攻科課程では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 6. 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか。



(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
(常勤職員)

学校の目的とアドミッションポリシー (常勤職員) 回答数 30

■ 全く分からない ■ ほとんど分からない ■ ある程度、分かる ■ 大体、分かる ■ よく分かる

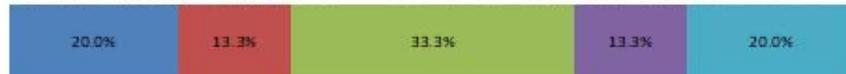
設問 1. 本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか。



設問 2. 学校要覧や学生便覧、シラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか。



設問 3. 単学士課程の教養教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 4. 単学士課程の専門教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 5. 専攻科課程では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 6. 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか。



(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

「学校の目的とアドミッションポリシー」の周知に関するアンケート集計結果
(非常勤職員)

学校の目的とアドミッションポリシー (非常勤職員) 回答数 11

■ 全く分からない ■ ほとんど分からない ■ ある程度、分かる ■ 大体、分かる ■ よく分かる

設問 1. 本校には明文化された「学校の目的」が明確に定められていることを知っていますか。



設問 2. 学校要覧や学生便覧、シラバスなどに「学校の目的」が書かれていることを知っていますか。



設問 3. 準学士課程の教養教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 4. 準学士課程の専門教育では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 5. 専攻科課程では目標が設定されています。それぞれの目標に対応する教科が分かりますか。



設問 6. 秋田高専のアドミッションポリシーを知っていますか。



(出典 平成 25 年度 自己点検・評価に係わるアンケート調査結果)

資料 1 - 2 - ② - 1

「配布先リスト」 (他大学・他高専への配布先一覧)

配布先	学校要覧	学生便覧
国立高専機構本部	5	1
文部科学省	1	1
高等専門学校		62
秋田大学	1	
東北地区大学		
大学(進学先等)		
秋田県教育委員会	1	
秋田市教育委員会	1	
秋田県内中学校	133	
秋田県内工業高校	9	
報道機関	15	
秋田高専産学協力会	52	
国会図書館	5	
カレッジプラザ	5	
アルヴェ	5	
歴代校長	4	
教職員	87	
学生課(就職・入試用)	50	
総務課(来客用他)	526	
合計	900	64

(出典 学生課資料から抜粋)

資料 1 - 2 - ② - 2

配布先リスト (企業)

秋田南教農業協同組合	J U K I 株式会社
株式会社青葉コンサルタント	T D K 株式会社
株式会社新井組	日発精密工業株式会社
株式会社住友大阪セメント	扶桑精工株式会社
株式会社トマック	田中貴金属工業株式会社
旭シンクロテック株式会社	株式会社アズマ
菊川工業株式会社	石川島汎用機サービス株式会社
住友金属プラントック株式会社	株式会社ケーヒン
前田道路株式会社	本田技研工業株式会社
水谷建設株式会社東日本支社	津田工業株式会社
山崎建設株式会社	株式会社テクモ
太田防水工業株式会社	株式会社日野自動車
鹿島道路株式会社	日本オーチスエレベーター株式会社
株式会社秋田銀行	ニプロファーマ株式会社大館工場
雪印乳業株式会社	宇宙航空研究開発機構
株式会社日清紡 館林工場	株式会社牧野フライス製作所
花王株式会社	日本貨物鉄道株式会社東北支社
株式会社カネカ	JR 東日本株式会社
塩野義製薬株式会社	NHK 秋田放送局
住友化学株式会社	大阪ガス株式会社
大日精化工業株式会社	秋田ゼロックス株式会社
チッソ石油化学株式会社 五井製造所	株式会社アルメックス
東レ株式会社	株式会社リキネット
東洋インキ製造株式会社	株式会社秋田ルミナ
大日本インキ化学工業株式会社	株式会社 J A L 航空機整備成田
コスモ石油株式会社	G E 横河メディカルシステムズ株式会社
新日本石油株式会社	総合警備保障株式会社
タイヨーインタナショナル株式会社	日本原子力発電株式会社
株式会社 T S G	富士電機システムズ株式会社
高砂熱学工業株式会社	三菱電機ビルテクノサービス株式会社
株式会社 OA 研究所	中外テクノビジネス株式会社
T D K - M C C 株式会社	フジテック株式会社
株式会社日立製作所	丸水中央水産株式会社
J U K I 電子工業株式会社	日本興亜損保 秋田支店
カシオテクノ株式会社	秋田市消防本部
京セラ株式会社福島棚倉工場	社団法人 東北建設協会
ソニー宮城株式会社	医療法人 久幸会
株式会社五洋電子	

(出典 アンケート送付一覧から抜粋)